



2023年8月9日

上場会社名 永大産業株式会社  
コード番号 7822 URL <https://www.eidai.com>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長  
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日  
配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 枝園 統博  
(氏名) 森下 昌樹

TEL 06-6684-3020

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	17,627	8.0	△138	—	△133	—	△894	—
2023年3月期第1四半期	16,324	18.6	△224	—	△181	—	△183	—

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △877百万円 (—%) 2023年3月期第1四半期 △578百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△20.25	—
2023年3月期第1四半期	△4.15	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	%	百万円	%	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	90,765		38,421		43.8	900.28
2023年3月期	92,978		39,520		43.7	918.88

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 39,788百万円 2023年3月期 40,610百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	72,000	3.2	△300	—	△500	—	△1,100	—	△24.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期1Q	46,783,800 株	2023年3月期	46,783,800 株
2024年3月期1Q	2,588,416 株	2023年3月期	2,588,416 株
2024年3月期1Q	44,195,384 株	2023年3月期1Q	44,195,384 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
	(1) 経営成績に関する説明 .....	2
	(2) 財政状態に関する説明 .....	3
	(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2.	四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
	(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
	(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
	四半期連結損益計算書	
	第1四半期連結累計期間 .....	6
	四半期連結包括利益計算書	
	第1四半期連結累計期間 .....	7
	(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
	(継続企業の前提に関する注記) .....	8
	(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
	(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
	(四半期連結損益計算書関係) .....	8
	(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類感染症」に移行されたことを受け、社会生活や経済活動の更なる正常化が図られました。一方、ウクライナ情勢の長期化に伴う原材料や資源・エネルギー価格の高騰に加え、世界的な金融引き締めを背景とした海外景気の下振れ、さらには為替相場の急激な変動等には留意が必要な状況が続いており、先行きは不透明な状況で推移しました。

住宅業界におきましては、住宅資材価格の高騰等に起因する建設コストの上昇や住宅ローン金利の先高観による住宅取得マインドの低下が懸念されるなか、新設住宅着工戸数は弱含みで推移しており、利用関係別では持家が前年を下回る着工戸数となりました。一方、ウッドショックによる木材価格の高騰はピークを過ぎたものの、ウッドショック前の水準には程遠い状況にあります。さらに、電力費や燃料費、物流経費、副資材等においてもコストが大幅に上昇しており、企業収益を圧迫する状況が続いております。

このような状況下、当社グループでは、2024年3月期を最終年度とする中期経営計画「EIDAI Advance Plan 2023」の実現に向けて、本計画の基本方針に基づく各施策への取り組みを進めてまいりました。また、電力費や燃料費をはじめとする様々なコストの上昇や高止まりによる損益への影響を抑制するため、全社を挙げて生産性の向上や経費削減の取組を継続してまいりました。さらに、販売部門におきましては、お客様に対して適正な販売価格への改定をお願いしつつ、メーカーとしての供給責任を果たすことを最優先に考え、資材の安定調達と製品の安定生産、安定供給に取り組んでまいりました。しかしながら、2023年5月13日に当社敦賀事業所のパーティクルボード工場の素材工程（以下、敦賀PB工場素材工程）及び連結子会社であるENボード株式会社のボイラー周辺設備において火災事故が発生しました。ENボード株式会社では人的被害はなく、6月26日に生産を再開しましたが、敦賀PB工場素材工程では1名が死亡、3名が負傷し、建屋や設備が激しく損傷したため、火災事故以降は生産を停止しております。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、主力の住宅資材事業が堅調に推移し、17,627百万円（前年同四半期比8.0%増）となりました。損益面では、住宅資材事業は売上高と同様に堅調に推移したものの、木質ボード事業における火災事故により、お客様への供給責任を果たすべく、急遽、外部から調達した素材PBを販売したこと、さらには、それらを基材として生産した化粧PBの販売により製造原価の押し上げ要因となりましたが、生産停止期間の経費等については、災害による損失として特別損失に計上いたしました。これらの結果、営業損失は138百万円（前年同四半期は営業損失224百万円）、経常損失は133百万円（前年同四半期は経常損失181百万円）となりましたが、災害による損失として967百万円を特別損失に計上したため、親会社株主に帰属する四半期純損失は894百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失183百万円）となりました。なお、災害による損失には、現時点で合理的に見積もることが可能な範囲の損失額178百万円を含めております。また、損傷した資産等には火災保険を付保しており、保険金の受取が見込まれますが、現時点において受取金額が確定していないことから、当第1四半期連結累計期間では受取保険金を計上しておりません。

敦賀PB工場素材工程の閉鎖及び特別損失の計上の詳細につきましては、本日開示しております「敦賀事業所パーティクルボード工場の素材工程の閉鎖並びに特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### (住宅資材事業)

住宅資材事業におきましては、引き続き、フローリング、室内階段、室内ドア、収納等の色柄・デザインを体系化した基軸ブランド「Skism（スキスム）」の販売拡大に注力しました。また、当社ウェブサイトやSNSに施工例サイトを立ち上げるなど、認知度の向上に努めております。

このほか、各分野別の取組は以下のとおりであります。

建材分野では、フローリングや室内階段において品揃えを充実させてきた「銘樹ブランド」の各製品の販売強化を図るとともに、室内階段においては省施工製品として高い評価をいただいている正寸プレカットの販売強化に努めました。

内装システム分野では、最上位シリーズの「グランマジエスト」において、収納製品ですでに採用している「GMカラーエレメント」を室内ドアに展開するとともに、「セーフケアプラス」製品群に事務所・店舗向け製品を追加するなど、品揃えの充実を図りました。

住設分野では、内装システム分野の「グランマジエスト」のブランドコンセプトをキッチンに採り入れた「グランマジエスト キッチン」やシンプルで開放感のある造作風洗面「アクアージュフロート」を発売するなど、水回り製品の販売強化に努めました。

これらの結果、電力費や燃料費をはじめとする様々なコストの上昇や高止まりが続くなか、当第1四半期連結累計期間の売上高は15,690百万円（前年同四半期比5.9%増）、セグメント利益は546百万円（同4.9%増）となりました。

#### （木質ボード事業）

木質ボード事業におきましては、2023年5月13日に敦賀PB工場素材工程及び連結子会社であるENボード株式会社のボイラー周辺設備において火災事故が発生しました。ENボード株式会社は6月26日に生産を再開しましたが、敦賀PB工場素材工程は建屋や設備が激しく損傷したため、火災事故以降は生産を停止しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は1,904百万円（前年同四半期比29.8%増）、セグメント損失は283百万円（前年同四半期はセグメント損失332百万円）と前年同四半期比では改善しておりますが、これは2022年11月にENボード株式会社が商用生産を開始したことによる売上高の増加に加え、火災事故に伴う生産停止期間の経費等を特別損失に計上したことによるものです。

#### （その他事業）

当社グループは、上記事業のほか、不動産有効活用事業、太陽光発電事業を推進しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高は32百万円（前年同四半期比5.0%減）、セグメント利益は18百万円（同10.8%減）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ2,212百万円減少し、90,765百万円となりました。主な要因は、時価評価により投資有価証券が増加したものの、現金及び預金、棚卸資産、機械装置及び運搬具がそれぞれ減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ1,108百万円減少し、52,348百万円となりました。主な要因は、賞与引当金が増加したものの、支払手形及び買掛金、未払金及び長期借入金がそれぞれ減少したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,103百万円減少し、38,416百万円となりました。主な要因は、配当金の支払い及び親会社株主に帰属する四半期純損失の計上によるものです。

### （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の景気見通しにつきましては、個人消費がコロナ禍から回復を続けており、国内経済は内需主導で緩やかな回復基調を維持するものと考えております。一方、住宅業界におきましては、住宅資材価格の高騰等に起因する建設コストの上昇や住宅ローン金利の先高観による住宅取得マインドの低下が新設住宅着工戸数に及ぼす影響が懸念されております。

当社グループとしましては、適正な販売価格への改定に加えて、高付加価値製品の更なる拡販による販売構成の見直しを推し進めるとともに、製造現場の自動化による生産性の改善など様々な角度から製造原価の低減や販管費の圧縮に取り組み、収益性の改善を図ってまいります。

2024年3月期通期の連結業績予想につきましては、火災事故の影響を踏まえ、2023年5月12日に公表しました予想値を修正しております。詳細につきましては、本日公表しております「敦賀事業所パーティクルボード工場の素材工程の閉鎖並びに特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,948	5,781
受取手形及び売掛金	16,473	15,703
電子記録債権	6,289	7,266
製品	5,373	5,449
仕掛品	3,640	3,642
原材料及び貯蔵品	7,103	6,113
未収入金	2,098	1,926
未収還付法人税等	126	122
その他	329	386
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	48,381	46,391
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,097	10,927
機械装置及び運搬具（純額）	15,604	15,090
土地	6,976	6,976
リース資産（純額）	3,370	3,301
建設仮勘定	155	277
その他（純額）	354	333
有形固定資産合計	37,559	36,907
無形固定資産	575	571
投資その他の資産		
投資有価証券	5,439	5,925
出資金	7	7
長期前払費用	423	369
繰延税金資産	49	48
その他	555	557
貸倒引当金	△13	△13
投資その他の資産合計	6,462	6,894
固定資産合計	44,596	44,373
<b>資産合計</b>	<b>92,978</b>	<b>90,765</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,343	6,436
電子記録債務	695	684
1年内返済予定の長期借入金	1,466	1,466
リース債務	350	353
未払金	13,498	12,933
未払費用	588	633
未払法人税等	145	48
未払消費税等	209	314
賞与引当金	479	754
災害損失引当金	—	178
その他	948	1,095
流動負債合計	25,726	24,898
固定負債		
長期借入金	21,426	21,059
繰延税金負債	239	383
退職給付に係る負債	2,501	2,520
環境対策引当金	54	54
負ののれん	76	69
長期預り保証金	73	83
リース債務	3,358	3,273
固定負債合計	27,731	27,445
負債合計	53,457	52,343
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,285	3,285
資本剰余金	1,370	1,370
利益剰余金	35,098	33,982
自己株式	△820	△820
株主資本合計	38,932	37,816
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,511	1,841
為替換算調整勘定	177	177
退職給付に係る調整累計額	64	66
繰延ヘッジ損益	△76	△114
その他の包括利益累計額合計	1,677	1,971
非支配株主持分	△1,089	△1,366
純資産合計	39,520	38,421
負債純資産合計	92,978	90,765

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	16,324	17,627
売上原価	12,463	14,153
売上総利益	3,861	3,474
販売費及び一般管理費	4,086	3,613
営業損失(△)	△224	△138
営業外収益		
受取利息	5	3
受取配当金	51	53
仕入割引	2	1
為替差益	9	3
負ののれん償却額	7	7
持分法による投資利益	9	11
雑収入	22	31
営業外収益合計	107	112
営業外費用		
支払利息	30	92
雑損失	33	15
営業外費用合計	64	107
経常損失(△)	△181	△133
特別利益		
固定資産売却益	1	0
補助金収入	521	—
特別利益合計	523	0
特別損失		
固定資産除却損	2	0
固定資産撤去費用	0	0
固定資産圧縮損	517	—
環境対策引当金繰入額	6	—
災害による損失	—	※ 967
特別損失合計	528	969
税金等調整前四半期純損失(△)	△186	△1,102
法人税等	163	48
四半期純損失(△)	△349	△1,150
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△166	△255
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△183	△894



(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△349	△1,150
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△232	330
繰延ヘッジ損益	—	△59
退職給付に係る調整額	3	2
その他の包括利益合計	△228	273
四半期包括利益	△578	△877
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△412	△601
非支配株主に係る四半期包括利益	△166	△276

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 災害による損失

2023年5月13日に当社敦賀事業所PB工場素材工程において発生した火災事故により損傷した生産設備等の固定資産及び棚卸資産の除却損等の損失額597百万円、及び、同日に当社の連結子会社であるENボード株式会社において発生した火災事故により損傷した設備の生産停止期間中の固定費及び復旧費用等の損失額369百万円を計上しております。なお、当該損失額には、現時点で合理的に見積ることが可能な範囲の損失額178百万円を含めております。また、損傷した資産等には火災保険を付保しており、保険金の受取が見込まれますが、現時点において受取金額が確定していないことから、当第1四半期連結累計期間では受取保険金を計上しておりません。

なお、当社敦賀事業所PB工場素材工程は火災事故の発生を受けて、2023年8月9日開催の取締役会において、閉鎖を決議いたしました。閉鎖に伴い追加で発生する損失額は軽微であり、当第1四半期連結累計期間の災害による損失に含めて計上しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	住宅資材	木質ボード	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,823	1,467	16,291	33	16,324	—	16,324
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	284	284	—	284	△284	—
計	14,823	1,751	16,575	33	16,609	△284	16,324
セグメント利益又は損失 (△)	521	△332	188	20	209	△434	△224

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	住宅資材	木質ボード	計				
売上高							
外部顧客への売上高	15,690	1,904	17,595	32	17,627	—	17,627
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	310	311	—	311	△311	—
計	15,691	2,215	17,906	32	17,938	△311	17,627
セグメント利益又は損失 (△)	546	△283	262	18	281	△420	△138

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産有効活用事業及び太陽光発電事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失（△）の調整額は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。